

小学校 総合的な学習の時間

## 「天空の城」？竹田城（第5学年）

～受け継がれた穴太積み～

奈良市立富雄第三小中学校 河野晋也

### 1. ESD を生かした授業づくり

#### (1) 単元名・学校種と学年

『「天空の城」？竹田城～受け継がれた穴太積み』 小学校第6学年

#### (2) 単元の概要

本単元では、情報リテラシーという観点から遺産の価値を多角的に捉え、限られた情報では見出せない遺産の価値に気付くという学習活動を取り入れている。竹田城では現在、多くの観光客を迎えたことで保存に関わる問題に直面している。このことから、情報の受け取り手としての姿勢を見につけ、また美しい景観の維持という持続可能性について考えていくことができる。

##### ①穴太積みの竹田城

竹田城の石垣は戦国期に数々の名城の石垣を作った穴太衆（あのうしゅう）の手による。穴太衆による石垣積み（穴太積みと呼ばれる）の技術の高さは織田信長の耳に届き、安土城の着工に携わったことでその名を広く知られるようになった。その後豊臣秀吉や徳川家康などに彼らの起用は引き継がれ、姫路城、伏見城、大坂城と多くの城で採用されるようになった。穴太積みは自然石を用いて（野面積み）いるため、排水の弁もよく非常に強固なものである。その技は「石の声を聞いて積む」「石の行きたいところにおいてやる」という極意とともに現代に継承され、穴太衆の末裔（栗田純司氏・滋賀県大津市坂本、穴太流十四代当主）らによって今でも日本各地の寺社城が改修されている。今年から、竹田城の修復にも穴太衆が携わることになった。

##### ②「天空の城」としての竹田城

現在の竹田城は、山頂に築城されたことで秋から早春にかけて雲海の中に見ることができ、「天空の城」「日本のマチュピチュ」などと呼ばれて親しまれるようになった。観光客増加のきっかけは日本100名城に選ばれたことや映画、CM、テレビドラマなどの撮影地となったことなどが考えられる。ただし、観光客が増加した結果、路面の悪化や価値が高いとされてきた石垣の崩落の危険性が高まり、その維持に問題が生まれてきている。市には竹田城課が設置され、一部立ち入り制限や入山料の徴収なども始めているが、一部マナーを守らない観光客などの影響もあり、その維持保存は急務の課題となっている。

##### ③見えにくい竹田城の魅力

現在では、情報ツールの多様化により様々な情報を簡単に手に入れることが可能になっている。しかし、我々が目にする情報は一部分に過ぎず、必ずしもすべての情報を正確に受け取ることができるわけではない。テレビなどで竹田城の雲海について知っている児童もいるだろうし、写真を見せれば自然のすばらしさや美しさを感じ取ることはできるだろう。「天空の城」という表現は竹田城のよさを非常に的確に示した言葉であるが、石垣の素晴らしさや受け継がれてきた伝統の素晴らしさ、保存の工夫が必要であることや崩壊の危険性を訴えるものではない。美しさを表現したすばらしいキャッチコピーであるが、文化財の保護という意図を伝えるものではない。このように表現の仕方一つで情報の受け取り手の思いが大きく変えられてしまうことをあわせて考えさせたい。穴太衆による石積みが現存されていることや、その技を数百年間受け継いできていること、も文化遺産としての

価値として大きいものである。現在の美しさは、かつて石の声を聞きながら石垣を積んだ穴太衆によって支えられるといっても過言ではない。受け継がれている事実をすることで、新しい竹田城を見る観点、さらには地域や文化遺産を見る観点が養われると考えた。

**【持続可能な社会づくりの構成概念】**

構成概念IV 公平性・頑丈であるはずの石垣が観光客の増加によって

崩れかけていることを知り、竹田城の保全、安全管理について考え、景観や穴太衆の技など竹田城のすばらしさを後世に伝えていくことの大切さを考える。【公平】

構成概念VI 責任制・県外市外からの観光客が朝来市の遺産を傷つけてしまっている現状を知り、文化遺産に対する姿勢を身に付ける。【責任】

《情報館「天空の城」 館長さんのお話》

観光客が増えたのはこの3、4年の間。日本の100名城に選ばれたことがきっかけとなり、また「歴女」などの言葉がはやったように歴史ブームがあったことも要因。さらに拍車をかけたのが高倉健さんの「あなたへ」という映画の撮影地になったこと、グーグルのCM、最近の大河ドラマなども。映画については、今でも「良かった！」「あのシーンがすてきだった」という声を聴くという。ただ町はあまり変わらない。お土産屋さんなんかは見てもらったらわかるとおり、まだまだ少ない。空き家も多いけれど、もともとあまりよその人を迎えようという町、風土ではないという原因もある。

来場者からお金取り始めたのも最近。冬はとらない。管理できず、また危ないから。自分の責任で上っていただくということにしないとむずかしい。以前もけがした人いた。今後は写真撮影場所もふくめて見学の通路作っていく。

観光客が増えると保存の問題が難しい。昔は草刈りしなければいけないほど雑草が伸びていた。今ではたくさん踏むため草が生えず土がむき出しになっている。すると靴についたり、剥がれ落ちたりして、土が減ってしまう。また雨降れば流れてしまう。結果石垣も浮いてしまい、崩れやすくなってしまふ。

今も栗田さんが修繕に行つて200年もつ石垣を作りたいと言っている。私たちにってはあそこに城跡があるのは当たり前のことだが、それがなくなると考えたらやはり悲しい。

2.ESD の視点を生かした授業の実践

(1) 単元の目標 (重視する能力・態度)

能力・態度① 多くの観光客を集める竹田城の現状を知り、メディアの伝え方について考え、より多面的に魅力を伝える方法を考える。《批判》

能力・態度⑥ 竹田城の石垣が400年前から受け継がれているものであることを知り、現在でも穴太衆の技と極意が受け継がれ、現在の石垣の修復に携わっていることを知る。《関連》

(2) 評価規準

批判 関心・意欲・態度	関連 技能	批判 思考・判断・表現	関連 知識・理解
① 竹田城の美しさに関心を持ち、どのようなメディアが伝え方をし、人々がどのような興味を持ったのか関心をもつ。	① 穴太衆の石積がどのような歴史を持ち、今に受け継がれているのかを調べる。	① 観光客が増えたことによって、竹田城の保全にどのような影響があったのかを考える。 ② 観光客に訴えるべき竹田城の魅力や課題について考える。	① 竹田城の歴史や穴太衆の技の極意について知る。

(3) 展開の概要

時間	主な学習活動と内容	◇教師の支援 ◆主な評価																		
1時間	<p>【竹田城について知ろう】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2枚の写真（一つは雲海に浮かぶ城、もう一つは石垣の見える写真）を見て、様子を比べる。</li> <li>○ かつては廃城となり、石垣しか残らない竹田城の写真を見て、感想をもつ。</li> </ul> <p>周りにあるのは雲？すごく高いところにあるの？</p> <p>きれいな景色！行ってみたいな。</p> <p>これお城なの？建物は残ってないけど。</p>	<p>◇ 「どちらに上りたいか」など二つを比べるような発問をし、同じ城でも感じ方が様々であることに気づかせる。</p> <p>◇ 「雲海に浮かぶ石垣」という竹田城ならではの魅力に気づかせる。400年以上の歴史があることや名城100選に選ばれていることもあわせて伝える。《批判》</p>																		
<p><b>竹田城はなぜ急に人気になったのだろう</b></p>																				
2時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 竹田城の人気が近年急速に高まっていることを知り、その原因を考える。</li> <li>○ 竹田城の写真を見ながら、竹田城の魅力を端的に伝えるキャッチコピーを考える。</li> </ul> <p>みんな景色を見に行くのかな。</p> <p>400年前からあったのに、なぜ急に観光地になったのかな。</p> <p>テレビやCMに取り上げられたらしいよ。撮影場所になったんだ。</p> <p>どこの地域も「行ってみたい！」と思うようなキャッチコピーだね。</p> <p>私なら雲の美しさを伝えるコピーを考えるなあ。</p> <p>「天空の城」 「日本のマチュピチュ」 「恋人たちの聖地」</p> <p>「天空の城」か！確かに行ってみたいくなるね。</p> <p>「日本のマチュピチュ」？どんなところだろう。調べてみよう。</p>	<p>◇ 来場者数の変化を読み取らせる。</p> <p>◇ 子どもの発言を受け止め、テレビで紹介されたことがきっかけであることを伝える。《批判》</p> <div data-bbox="863 1144 1449 1536"> <p style="text-align: center;"><b>竹田城 観光客数(人)</b></p> <table border="1"> <caption>竹田城 観光客数(人)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>観光客数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H17</td><td>10,000</td></tr> <tr><td>H18</td><td>20,000</td></tr> <tr><td>H19</td><td>20,000</td></tr> <tr><td>H20</td><td>25,000</td></tr> <tr><td>H21</td><td>40,000</td></tr> <tr><td>H22</td><td>55,000</td></tr> <tr><td>H23</td><td>100,000</td></tr> <tr><td>H24</td><td>240,000</td></tr> </tbody> </table> </div> <p>◇ 竹田城はテレビやポスターなどでどのようなキャッチコピーで観光客を集めたのかを考える。（参考として子どもたちの住む地域にある観光地のパンフレットやポスターを見せて自分たちの街が様々なキャッチコピーで紹介されているかを知らせる。）《批判》</p>	年	観光客数(人)	H17	10,000	H18	20,000	H19	20,000	H20	25,000	H21	40,000	H22	55,000	H23	100,000	H24	240,000
年	観光客数(人)																			
H17	10,000																			
H18	20,000																			
H19	20,000																			
H20	25,000																			
H21	40,000																			
H22	55,000																			
H23	100,000																			
H24	240,000																			

3時間

【観光客が増えるということは】

○ 観光客が増えたことで、400年残されてきた石垣を修復工事することが決まったことを知り、地域の方の思いを考える。

観光のためだから仕方ないと思ってるんじゃないかな。

人の命が危険なら、修復するべきだと思うな。

市役所でも観光客を呼ぶアピールをしていたもんね。



◇ 竹田城の石垣工事が、安全管理のためや来場者数が増えたことによる劣化を止めるため、などの理由で実施されることを伝え、市役所の方の400年残されたものを変えていくこと思いを考える。《関連・批判》

ずっと残ってきたものが壊れていくのはやはりつらいんじゃないかな。

せめて、できるだけ元の形を変えずに残して行きたいだろうな。

○ 「穴太積み」について調べ、互いに伝え合う。

竹田城を直す人たちは、もともと竹田城の石垣を作った人たちと同じ集団なんだって！

そんなに昔の技法を今に伝えているなんてすごい！

穴太積みって難しそう。「石の声を聞く」ってどういうこと？

石なのにコンクリートの壁よりも地震に強いんだって！

◇ 竹田城の石垣を作った「穴太衆」がその技法を現在まで受け継いでいることを伝え、調べたことを話し合わせる。《関連》

子どもに気づかせたい事柄  
・現代に伝わる穴太衆「栗太建設」  
・秘伝の技と技術者の少なさ  
・その評価の高さと「現代の名工」  
・技の難しさ「石の声を聞け」  
…仕事の様子を伝える文や新聞記事などを紹介する。

○ 「200年維持できる石垣を作りたい」という穴太衆の思いを知り、雲海の写真からは見えない良さを伝えることのできるポスター・キャッチコピーを考える。

一つ一つの石の声を聞きながら積まれた石垣だから、写真は一つの「石」を写したものがいいな。

400年以上技を途絶えさせることなく受け継いできた穴太衆についてのキャッチコピーを考えたいな。

◇写真のレイアウトや、キャッチコピーなどを考えさえ、自身が伝えたいと思う竹田城の魅力をポスターにまとめる。《批判》

1時間

○ 自分の街のキャッチコピーを見直そう。

鹿といっしょに生活してきた人々についてキャッチコピーを考えても面白いよ。

◇再度自分の市(県)のパンフレットやポスターを見て、伝えるべき良さが伝えられているか、問題にすべき問題が隠れていないかを考える。《批判》